

愛媛県立中央病院で診療を受けられる皆様へ

当院では、下記の研究を実施しておりますのでお知らせいたします。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の間合せ先にご連絡下さい。

肝硬変患者様は肝臓内に貯蔵することができるグリコーゲン量が減少するため、夜間低血糖を起こしやすいとされています。サルコペニアとは進行性および全身性の骨格筋量や骨格筋力の低下を特徴とする症候群であり、身体的な障害や生活の質の低下、死など、進行すると有害の危険性を伴うこともあります。加齢に伴って生じるサルコペニアは原発性（一次性）サルコペニアと呼ばれています。

肝硬変患者様では、タンパク質エネルギー低栄養状態に陥りやすく、筋肉を分解して不足したエネルギーを補おうとするので、二次性サルコペニアを生じやすいと考えられています。さらに、サルコペニアは肝硬変患者の生命予後因子となるという報告があり、臨床的に重要であると思われます。

特に筋肉量低下のハイリスク集団と考えられる低アルブミン血症を有する肝硬変患者について、筋肉量の低下の実態やその変化、筋肉量の変化に与える臨床的な因子についての情報が求められています。

本研究では、低アルブミン血症の肝硬変患者を対象として、腹部 CT で評価した筋肉量の変化について調査することを目的としています。

① 研究課題名	肝硬変患者における腹部 CT で評価した筋肉量の変化に関する観察研究			
② 実施予定期間	2016年12月 ～ 2020年12月			
③ 対象患者	低アルブミン血症の肝硬変患者様			
④ 対象期間	2015年12月 ～ 2018年12月			
⑤ 実施診療科	消化器内科			
⑥ 研究責任者	氏名	道堯浩二郎	所属	消化器内科
⑦ 使用する資料等	診療録（カルテ、画像検査など）から、年齢、性別、身長、体重、BMI、BCAA 製剤服薬状況、Child-Pugh score、アルブミン値、総ビリルビン値、PT 値、アンモニア値、肝性脳症の有無、腹水の有無、肝臓の有無、分岐鎖アミノ酸製剤内服の有無、ヘモグロビン値、血小板値、体組成計のデータ、CT における筋肉量のデータ、握力値、歩行速度 (m/s) 等の情報を抽出します。			
⑧ 研究の意義	低アルブミン血症の肝硬変患者を対象として、腹部 CT で評価した筋肉量の変化について調査することを目的としています。			
⑨ 研究の方法	当院を含む全国17施設において、対象期間に低アルブミン血症の肝硬変患者様に対し、匿名化の後、解析を行います。			
⑩ 倫理審査	臨床研究審査委員会承認日 2016年12月8日			
⑪ 結果の公表	論文等にて公表します。			
⑫ 個人情報の保護	上記にて公表する場合、個人情報特定されることはありません。			
⑬ 知的財産権	研究グループに属します。			
⑭ 研究の資金源	味の素製薬株式会社の研究費を用います。			
⑮ 利益相反	ありません。			
⑯ 問い合わせ先	愛媛県立中央病院：道堯浩二郎			
	電話	089-947-1111	FAX	089-943-4136